

法政大学 vs 大阪体育大学

12月10日(土) 11:00

町田

初戦の高知大学戦はビッチ状態に苦しみ攻撃のギアが上がらなかった法政大学だったが、前半16分に相手DFが退場。このプレーで得たPKをきっちりDF柳沢拓希(4年)が決めて先制すると、以降は大量得点を重ねて6-0というスコアで試合を終えた。試合終盤には3トップを交代させ、温存できたことも大きな収穫で、2回戦も大暴れなるかに注目だ。ポイントとなるのはFC東京加入内定のDF山田将之(4年)を中心とした3バックの出来。大阪体育大学の長所であるロングボールを跳ね返し、2戦続けて無失点を保てるか期待したい。

対する大体大は44年間、指揮を執る坂本康博総監督が今季限りで、勇退。最後の花道を飾るため、3年ぶりの日本一を掴もうと選手たちの鼻息は荒い。今季はMF末吉聖をはじめ2年生がスタメンの多くを占め、試合ごとの波の激しさが課題。乗った時は手に負えないほどの攻撃力を発揮するが、試合運びで脆さを感じる試合も多い。また、初戦の難しさもあり、苦戦が予想されるが、指揮官がキーワードとして挙げる「耐えて勝つ」姿勢を徹底できれば勝機が広がるはずだ。

(文・森田将義)

	1林	法大
2山田	4柳沢	6伊藤
17武藤	24渡辺	16長倉
		22黒崎
9鈴木	13青柳	
	26ディサロ	
24大田	26古城	
11末吉		10池上
	23江郷下	28田中
2太田	3羽田	4菊池
6平田		
大体大	1野坂	

明治大学 vs 九州共立大学

12月10日(土) 13:30

町田

夏の総理大臣杯に続き、関東リーグを圧倒的な強さで制した明治大学。今大会、目指すは同校史上初の三冠達成だ。リーグ終盤4試合は2分け2敗と失速したが、新システムを試すなど、レベラップに取り組んでいた。栗田大輔監督は「全員がハードワークして全力で初戦突破に向けて頑張ります」と抱負を語っている。入り方が難しい大会初戦だが、関東リーグMVPのGK服部一輝や甲府内定のDF小出悠太(ともに4年)を中心とした守備陣が安定したプレーを見せれば、おのずと主導権を握れるはずだ。

対する九州共立大学は1回戦で北海道教育大学岩見沢校を1-0と破り、全国大会初勝利を挙げた。立ち上がりには幸先良く先制し、1点を守り切った米山隆一監督は「強いチームなら2、3点目を取ったと思う」と決定機逸を課題として挙げつつも、「皆が良くやってくれた」と選手たちを称えた。初出場のインカレで初戦突破を果たし、自信をつけているだろう。鋭い突破を繰り返したMF宮本敏広(3年)がサイドの攻防で優位に立てれば、攻撃の糸口を見出せるはず。優勝候補と目される明大を相手にどんなプレーを見せるか、注目だ。

(文・内藤悠史)

	1服部	明大
3鳥海	4小出	5河面
12岩武	6柴戸	2早坂
8道潤		9土居
	10丹羽	11岩田
	10古川	11宮本
6吉田	14角	4横道
		7木橋
2三村	3山下	16富田
19山内		
共立大	1藤野	

関西学院大学 vs 専修大学

12月10日(土) 11:00

大和

今季は関東リーグ7位となり、プレーオフでの出場となった専修大学。1回戦の日本文化大学戦でも苦戦は続き、2度のリードを追いつかれる展開となったが、86分に奪ったFW岸見司(1年)の得点で辛勝。岸は「良い内容ではなかったが、まずは勝てたことが大事」と胸を撫でおろした。FW柳有崇(4年)が2点を奪った攻撃の状態は上々だが、2点を奪われた守備は2回戦での修正ポイント。特に関西学院大学はアルビレックス新潟加入内定のMF森俊介(4年)を起点とする、サイド攻撃に秀でたチームでいるだけに対面するDF小口大貴(4年)の奮闘が勝利に欠かせない。

一方、関学大は1回戦がシードのため、この試合が初戦。「目標は優勝だが、そのためには初戦が全てと思って取り組んできた。初戦に全て注ぎ込む」と成山一郎監督が意気込むように一戦一戦の気持ちで試合に挑む。全国大会特有の緊張感から上手く試合が運ばないことも想定し、練習に励むなど準備は万全。主将のDF米原祐(4年)、昨年大会でMVPを受賞したFW出岡大輝(4年)ら日本一を知る選手を中心に好発進できるか注目だ。

(文・森田将義)

	1上田	関学大
18高尾	5米原	2岡山
		16小川原
		10徳永
11森	29山本	7出岡
		25塩谷
	13中井	
27中山	4柳	11佐藤
		7三沢
	8野田	14岡本
32小林	26鹿沼	15田口
2飯田		
専大	21萬	

静岡産業大学 vs 日本体育大学

12月10日(土) 13:30

大和

5年ぶり11回目の出場となった静岡産業大学は、1回戦で3-0と快勝。前半はやや硬さも見えてスコアレスに終わったものの、69分に均衡を破った後は攻撃のペースを掴み、得点を重ねた。3点目を決めたFW栗田マーク(1年)は「先制して相手が前に出てきてくれた。スペースがあると自分は活きるので後半は爆発できた」と振り返っている。スピード豊かな突破が持ち味のアタッカーを揃えているだけに、「格上を相手し(栗田)の2回戦でも積極的にスペースへ飛び出す攻撃で相手を押し込んでいきたい。

対する日本体育大学は、1部復帰1年目で関東3位に入った。インカレには35年ぶりの出場。鈴木政一監督は「初戦がポイントになる」と展望している。リーグ戦では22試合で34失点と守備面に課題が残るが、指揮官も「もう少し安定感が必要」と認めているだけに、DFシロカ ポニフェイスやDF寺田弓人(ともに3年)ら、屈強なフィジカルを誇る最終ラインの奮起に期待したい。突破力のある相手攻撃陣とのマッチアップは見応えがありそうだ。攻撃の中心はMF高井和馬(4年)。関東リーグ得点王のプレーに注目だ。

(文・内藤悠史)

	1中村	静産大
4新村	6朝香	5諏訪部
	8名和	14藤池
19佐藤	10斉藤	17藤田
	21栗田	9遠山
		17平川
		11太田
10高井		7川戸
	8大石	6小泉
2高野	20寺田	5シロカ
3福田		
日体大	1長谷川	

関西大学 vs 鹿屋体育大学

12月10日(土) 11:00

夢の島

1回戦では技巧派揃いの東海学園大学に1点を奪われた関西大学だが、前田雅文監督が「必ず1、2人がシューターに対して粘ってくれた」と称えたように守備陣が健闘。後半途中からは、交代選手への投入によって流れを引き寄せ、逆転勝利をおさめた。2回戦でも鍵となるのは、選手起用。「特徴が被らない選手がいろいろいる(前田監督)強みを活かし、後半一気に攻撃のギアを上げることができれば、勝利が見えてくる。また、初戦で2点をマークし、「5試合連続でゴールを奪いたい」と意気込むFW竹下玲王(3年)にも期待したい。

対する鹿屋体育大学は九州リーグで10勝1分と無敗を維持し、1位で大会に挑む。勝敗の鍵を握るのは、ボランチながらリーグ得点王となったMF松田天馬(3年)。正確なキックを武器にアシストでも魅せるエースが持ち味を發揮すれば、勝利が近づく。また、結束力と集中力の高さも武器で、拮抗した展開が予想されるこの試合は1年の取り組みの成果が問われる試合になるはずだ。青木竜監督の「初戦突破でチームを波に乗せる」という意気込みを果たせるか。

(文・森田将義)

	1前川	関大
12池端	29諸石	4荒木
		21黒川
	14森主	5石井
24塩谷		10清永
	17竹下	11加賀山
	7片井	14向高
16樋口		11三宅
	2藤山	10松田
13福森(勇)		5福森(健)
	3西川	25奥村
鹿屋大	1馬渡	

筑波大学 vs 中京大学

12月10日(土) 13:30

夢の島

関東1部リーグ復帰1年目にして、2位フィニッシュを果たした筑波大学。得点ランク2位のFW中野誠也(3年)やU-19日本代表のMF鈴木徳真(2年)など、関東屈指の陣容を誇る。夏の総理大臣杯では2回戦敗退に終わっただけに、インカレに懸ける思いは強い。中野とFW北川終斗(3年)の2トップを軸に、「誰が出ても良さを引き出し合いながら戦える(小井土正亮監督)という選手層の厚さを活かして総力戦で勝ち上がってほしい。

対する中京大学は、1回戦で札幌大学に4-0と快勝。前半終了間際に均衡を破ると、後半立ち上がりには立て続けに2点を決めてリードを広げた。後半はミスも目立ったものの、一気にたたみ掛ける攻撃力を見せつける形となった。2ゴールを決めたFW坂本広大(3年)は中2日を迎える2回戦に向けて「レベルが高い相手だが、自分たちのサッカーをして勝ちにいきたい」と語る。総理大臣杯では早稲田大学に1-2と屈して敗退しただけに、関東勢相手の一戦に燃えているはずだ。初戦快勝の勢いに乗って立ち上がりから攻勢をかけ、主導権を握りたい。

(文・内藤悠史)

	30阿部	筑波大
3小笠原	5鈴木(大)	
14会津		26加藤
	8吉田	6鈴木(徳)
16戸嶋		17野口
	11中野	10北川
	9水野(翔)	20坂本
19岡田		8西村(仁)
		7水野(隼)
		6江口
15應和	12速水	5西村(佳)
2大村		
中京大	1川村	